



レジヌ (ラズン)

れじーぬ (らずん)



概要

レジヌとは、リトグラフの製版を行う時に、製版インクや描画材を定着させ、製版液の酸から画線部を保護するために用いる薄黄色の粉末です。成分は、生松脂（バルサム）から揮発性油（テレピン油）を蒸留した時に残留する樹脂（resine：仏）成分で、耐酸性の性質を持っています。

レジヌの使用方法としては、石版石やアルミ板などの版材に施された描画部分（リトクレヨン・解き墨・製版インクなど）に対して、レジヌを柔らかい布や脱脂綿でやさしく擦り込むことで、粉末が定着し耐酸性になります。その後、同様の使用役割のタルク（ストーンパウダー）を更に塗布することでより耐酸性が増し、製版液（酸性）が塗布されても描画部分は保持されます。

使用方法



描画部分を完全に乾燥させた後、レジヌを画面上に振りかけ、脱脂綿や柔らかい布などで画線部を中心に擦り込んでいきます。この作業を第一次製版・第二次製版でおこないます。

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

数字